

船舶事故調査報告書

令和2年7月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和元年12月23日 15時30分ごろ
発生場所	静岡県熱海市赤根崎南東岸 熱海港防波堤灯台から真方位183° 1.6海里付近 (概位 北緯35°04.1′ 東経139°04.8′)
事故の概要	プレジャーボートIREGUI 1091は、北西進中、岩場に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和2年2月4日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート IREGUI 1091、14トン
船舶番号、船舶所有者等	290-66014静岡、株式会社ミヤビコーポレーション
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	なし
損傷	船首部船底外板に破口、主機に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 下げ潮の初期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人3人を乗せ、釣り場から帰港する目的で、熱海市所在のマリーナに向けて大島北西方沖を約30ノットの対地速力で北西進中、船長が、椅子に腰を掛けて自動操舵として操船していたところ、いつしか居眠りに陥り、赤根崎南東岸の岩場に向かい、同岩場に乗り揚げた。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.8m、船尾約1.5mであった。</p> <p>知人1人は、操縦席の隣の席で、残りの知人2人は、操舵室前方の船室でそれぞれ睡眠をとっていた。</p> <p>船長は、本事故当時、睡眠不足で疲れていたことに加え、周囲に他船を認めなかったため、緊張感が緩んで眠気を感じていた。</p>
分析	本船は、自動操舵により北西進中、船長が、周囲に他船を認めず、緊張感が緩んで居眠りに陥り、赤根崎南東岸の岩場に向かって航行を続けたことから、同岩場に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が自動操舵により北西進中、船長が、周囲に他船を認めず、緊張感が緩んで居眠りに陥り、赤根崎南東岸の岩場に向かって航行を続けたため、同岩場に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船長は、椅子に腰を掛けた姿勢で操船する場合、時々、椅子から立ち上がったたりするなど、居眠りを防止する措置を採ること。

